

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200520		
法人名	社会福祉法人伏木会		
事業所名	グループホーム如意の里		
所在地	富山県高岡市伏木本町10-8		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和2年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の方々の残存能力、可能性、個々のリズムを大切にして、入居者と職員が協力しながら生活を送ってもらっている。
 ・地元の自治会の納涼祭や、体操教室等の行事への参加から、地域住民の方々との触れ合い、関わりを大切にしており、社会との繋がりが途切れないように心掛けている。
 ・多面的なサービス提供を行うために、日頃から多くの本人の気持ち、家族の意向などを聞き取ることにしている。
 ・職員は共に過ごす生活の中から、また研修などを通して認知症を知識面、技術面から学び様々なケースに柔軟に対応できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の8割近くの方が所在地の中学校区の住民であり、事業所及び併設事業所に対して地域の方々が普段から気にかけてくれる等、地域との関係が深い。
 ・住民との良好な関係性が訪問ボランティアや、地域行事への参加等にもつながっている。コロナ禍の現在は、残念ながらあまり活発な交流を行うことはできていないが、古くからある近所の食堂のメニューを用意してもらい、利用者が選んだ出前を取る等、関係継続に努めている。
 ・職員、利用者共に地域での触れ合いを楽しみにしており、新型コロナウイルス収束後を見据えて様々なプランを検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届きやすい場所に基本理念を掲げ、職員全員で理念を共有しながら、より質の高いサービスを提供できるように実践している。	法人の理念はサービスステーション内に掲示しており、職員はいつでも確認できるようになっているが、その見直しや外部への発信などはあまり行われていない。	法人理念だけでなく、事業所としての独自方針の作成等の検討や、職員だけでなく利用者や家族にも周知できるような工夫をされることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回の公民館での交流や、納涼祭の参加などで地域の方々との交流の機会を設けている。また施設としては、月に一度笑縁あっさりカフェを開催している。今年度はコロナの影響で参加、開催していない。	コロナ禍の中、地域との交流は控えているが、収束後の事をスタッフ間で話し合い、すぐにも再開できるような体制づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や笑縁あっさりカフェ、公民館での交流の場で、利用者との触れ合いを通して認知症を理解してもらい、質問や相談を受けた場合は助言させてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で挙げた意見や助言については、カンファレンスで職員に伝え、話し合い質の向上に努めている。	コロナ禍の現状を踏まえ、年度始めは開催を控えていたため、資料の送達で状況を伝えていた。ようやく9月には利用者家族や関係者が参加して1回目を開催し、状況を報告して意見交換をすることができている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業運営やサービス提供の中での疑問や困難事例については、地域包括センターや市の担当部署に相談を持ち掛けている。	運営推進会議の参加はもちろん、日常的に情報提供や情報共有に努めている。また、地域ケア会議開催要請等の事案が発生すれば、必要に応じて適切な対応がとることができるように、各種の研鑽にも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束をしない意識を持ちながら業務に就き、月に一度は身体はもちろん、言葉の拘束に繋がる声掛けをしていないか話し合う場を設けている。	職員は介護サービス経験者が多く、どのような事が身体拘束なのか、また、身体拘束がやむを得ないとされる3要件を理解して平素から利用者の尊厳維持に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや委員会の場で、虐待防止の意識を高めて、職員間で互いに利用者自身が苦痛を感じる行為が行われないサービスの提供を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加することはできてなく、学ぶ機会は持っていない。今後は学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際には、書類上の説明だけでなく、生活を送る中で考えられる課題や状態変化による対応の進め方において、家族の協力も必要になることを理解していただいた上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からは、直接話をさせていただけるような関係、雰囲気作りを心掛け、日頃のコミュニケーションや、繋がりを大切にしている。また頂いた意見については話し合いの場に挙げている。	コロナ禍の影響により、家族との面会に制限が出ているが、職員は、玄関先での面会時に家族とコミュニケーションをとりながら、意見を聞き出せるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	予算編成時に、各部署から運営方針や処遇方針を明確にする時点で、職場カンファレンスを通じての意見の集約に努めている。	管理者を中心とし、適度な距離感を保ちながらも気さくに話せる雰囲気を作り、職員の本音が聞き出せるよう心掛けている。聞き得た情報は、頻繁に開催している各種の委員会で議論をし、職員にフィードバックして運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度に目標管理を導入し、個々の目標の達成度を年2回詳細に把握し、個人の評価や、職場環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会や各部署の目標管理の中に、(不足能力の修得)を位置づけ、計画的に研修に参加し、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	加盟団体が主催する各種毎の研修やレクリエーションに積極的に参加し、情報の収集を行い、自部署の改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントでは、ただ思いや意見を聞くのではなく、表情の変化や過去の言動も参考に、表現しにくい本人の気持ちを少しでも知り得るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が抱えている不安や要望を聞き、グループホームで生活を送ってもらう中での改善点や不安の解消につながるアドバイスをさせていただき、多様な相談にもらせてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体状況、認知症状の段階や生活状況等を把握して、何を必要としてどう支援していくべきかを明確にしている。必要とあれば、他のサービスについても説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各々のできること、やりがいや喜びを感じてもらえること、可能性を見つけ出して、一緒に家事などの役割を持った生活を送ってもらえるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な受診については、面会も兼ねて家族の方の付き添いのもとで外出してもらっている。その際には利用者の状態や生活の様子を報告して、家族からも思いや意見をいただき、本人を支えていく中での信頼関係を築けるようにしている。 コロナ過の現在は、職員付き添いのもと受診に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、外出や外泊の機会を作ってもらっていたが、コロナ過の現在は外出を控えていて、リモートでの面会や電話を通しての繋がりに留まっている。	今は外部との交流、接触を遠慮してもらっているが、その状況下でも面会に来られた家族に対しては、玄関横の相談室から2階とのリモートでの面会を実施している。家族からも現状できうる最大限の対応をしてもらっているとの感謝の声も挙がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの様々な思いや生活、生活歴などを踏まえた上で、孤立しないよう利用者同士の変化に気を付けて、職員と共に良い関係が作れるように、トラブルにならないような配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供が終了した後も、本人や家族の相談に応じて、必要であれば助言などをさせていただくよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から、利用者の表情や言動、状態の変化などの多くの情報を集め、本人に希望や思いについて確認する。さらに、職員や家族で検討して、最良のサービスに繋がるように進めている。	日常生活の中で積極的に声かけし、利用者の思いや意向について聞き取れるような環境作りに努めている。聞き取った情報については個々のケース記録に記入し、全職員で周知もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、担当ケアマネジャーや主治医といった本人を取り巻く関係者からできる限りの情報を収集している。家族には生活歴、特記事項を記入できる用紙を渡して記入してもらい、サービス提供に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り時、カンファレンスで昼夜を通して、本人の表情や状態の変化からのサインを見失わずにキャッチして、心身状態を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態を把握して、本人の思いや考えを聞き、家族の方の意見も取り入れ、担当者会議で話し合い、本人にとって適した介護支援計画になるよう心掛けている。	月2回の委員会等で上がってくる利用者の日々の様子や希望、不安などを話し合いながらモニタリングが行われている。また、委員会記録だけでなくケアプラン5表にも記載することで、全職員間の共有も図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や排泄、食事量や入浴状況などの記録からの情報を役立て、職員間での話し合いを経ての実践、さらには介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まずは利用者と家族の思いを聞き、様々なニーズに応えられるよう、チームでの支援の方法を話し合い、行動するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事への参加、近隣保育園児の慰問などから、地域の方々とのおふれ合いの時間を設けている。また、近くのスーパーまで買い物に出掛ける時間も設けて社会との繋がり、生活の流れが失われないように心掛けている。コロナ禍の現在は実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されてからも本人の状態をより把握できていることから、かかりつけ医の継続を勧めている。受診の際には必要に応じて、本人の様子や心身の様子が分かるような記録を持参してもらっている。	かかりつけ医へ家族付き添いの下で受診している場合は、施設での様子や気になる点を記入したものを家族に渡し、病院へ持参してもらっている。また、受診後には家族から受診内容をフィードバックしてもらい、施設内で共有している。現在はコロナ禍のため、家族受診ではなく施設職員対応で受診に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活を送る中での気づき、体調の変化に細心の注意を払い、併設事業所の看護師に相談して、助言や意見を聞き、受診等の必要な対応をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側へ必要な本人の情報を提供している。面会や家族からの連絡から、細かな情報確認をさせてもらい、退院に向けてのできる限りの支援をさせていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状看取りケアは行っていない。チームでの看取りケアに向けた知識や技術の向上、体勢を整えられるように努めていきたい。	現時点では看取りケアの実績はない。管理者は、最期までここに居たいと望まれる利用者や家族の要望・希望に応えるためにも、職員研修や体制の構築を進めていきたいと考えている。	利用者や家族の思いを聞き取り、事業所としてどんなことが可能なかを検討する等、利用者・家族の希望に応えるための体制の構築及び研修に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昼夜共に、事故や急患発生時対応のマニュアルを作成して、職員は流れを把握して対応にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの下、日中と夜間の想定で、年2回の消防避難訓練を行い、指導や指摘を受けて、改善に向けて取り組んでいる。	事業所の近くに同一法人の特別養護老人ホームがあるため、緊急時にはそちらへ避難することとしている。また、火災時の訓練の他、地域と合同で地震を想定した訓練も実施し、マニュアルも整備されている。その際、炊き出し等にも参加させてもらう等、自治会との協力も得られている。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴、性格やその時々思いなどを考慮して、自尊心を傷つけないように接している。	入所前に利用者の習慣や生活歴を家族から詳しく聞き取り、記入したものは職員で共有している。また、それを基に本人の思いに寄り添った声かけや、人格を尊重した対応をするよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間や場所、状況や本人の心身の状態に応じてコミュニケーションの取り方を工夫して、自分の気持ち、希望や不満を自由に表現して決定できるような雰囲気づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを把握して、入浴日や食事時間、食事内容の変更など可能な限り対応させてもらっている。こちら側から導く場合は、押し付けるのではなく、選択してもらうなど、利用者の意見を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時の着替えについて、自分で衣類を準備できる方には、好みに合わせて用意してもらっている。職員で用意させていただく方に関しては、季節や寒暖、本人の好みに気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	危険が少ない簡単な調理や盛り付け、食後の食器洗い、片付けを職員と一緒にしている。出前を取るなどのイベント食の際には、自己決定してもらい、食事を楽しんでいただけるようにしている。	地域の店から食材を調達し全て事業所で調理している。調理は職員がメインとなり、簡単に手伝えることは利用者に参加してもらっている。また、コロナ禍でイベントに出かけたりすることが出来ないため、食事で楽しんでもらうと出前を取る等工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食後に記録させてもらい、各々の食べる量、残してしまう物の把握をして、刻んでみる、味付けの工夫、食器の変更等の工夫により、必要量を食べてもらえるようにしている。水分に関しても、好みの物を提供する、時間をずらしてみるなどして、多く飲んでもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしてもらえるよう声を掛けている。一人でするのが難しい方については、介助させてもらっている。ポリドントなどの洗浄剤を使つての除菌、清潔保持も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日頃チェックしている排泄表から、各々の排泄パターン(時間・量・便秘日数等)を把握して、適切な排泄用品の使用、トイレ誘導の支援をするなど、その方に合わせて、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を参考に自分で判断できる人には日中はトイレ、夜間はポータブルトイレへと自己決定してもらっており、尿意のない方にはどの時間帯に尿量が多いか等を見極め、パットの大きさを調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘日数を考慮して、乳製品の提供、水分摂取や体操、散歩等の活動量を増やして便秘予防の対応をとっている。主治医にも便秘の状態を報告して、必要な下剤を処方してもらい、日数に合わせて服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	その日の体調や本人の気持ちを考慮して、入浴日や、入浴時間を変更するようにしている。過度な介助は行わずに、可能性を活かした本人にとって満足の得られるような入浴になるよう心掛けている。	入浴は他の部所の関係上時間帯が午後からになっているが、利用者のその日の状態によって入浴の調整を行う等、利用者の意向に沿いながらきめ細やかな支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの生活のリズムに合わせて休んでいただく時間を設けている。室内の温度や照明の調整、寒暖に適した寝具を使ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況の一覧表を作り、服薬内容から服薬の目的、副作用まで職員全員が把握できるように努めている。服薬内容が変更になった場合は、本人の状態変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯、食事作りなどの日常の家事を職員と一緒にすることにより、自分の役割を持ってもらえるようにしている。生活の中での楽しみや、好きなこと、趣味を無くすことなく、工夫を凝らして継続できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外食の機会には、行きたい場所や食べたいものを聞いて出掛けるようにしている。また季節によっては、近道を散歩して回り、季節を感じてもらえるようにしている。 コロナ過の現在は実施できていない。	コロナ禍のため法人の方針で、外出や外食などの支援は出来ていないが、以前は、お祭りの際に地域の方から名前を呼んでもらう等、地域に親しみを持ち、地域に密着した外出支援を行っていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、本人と家族の方に説明と、了解を得て預らせてもらっている。必要時には使えるように支援して、使用した分については、預かり帳に記載することとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族の生活状況に配慮して、電話を繋いで話をしてもらっている。手紙や年賀状などの便りが届いた際にも、本人や家族と話をし、返信などの対応をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには過剰にならない程度に、自分たちで手掛けた季節を感じられる作品を飾り付けている。大きな窓があり、明るさに配慮した開放感のある空間になっている。キッチンは職員と一緒に調理できるスペースを確保している。	リビングにはソファが3つあり、職員と利用者が一緒に座りテレビや日常会話、昔話を楽しんでいる。また、共同作品を作成して掲示したり、椅子に座った時に足の届かない人には足台を置き、そうでない人には座布団を敷いて調整する等、居心地の良い空間となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々体調や気分によって、自由にリビングやキッチンで過ごしてもらったり、居室で休んでもらったりしている。食事の際の席についても、気の合う者同士、トラブル防止を含めた入居者同士の関係性を考えて配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやテレビなどの位置は使いやすいように配置してもらっている。可能な限りは自宅が使われていた物を持参してもらっている。	居室には職員と一緒に家族から送られてきた写真や手紙などを飾り、持ち込みの家具は一人ひとりが使い勝手の良い位置に移動する等、利用者の個性を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの現状の力、思いを把握して、安全に暮らせることをもとに、可能な限り自立した生活を送ることのできるよう、居室の場所を決めたり、必要な介護用品を使用してもらっている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看取りケアを行うことに向けた実践が進んでいない。	看取りケアについての考え、思いを利用者本人、家族から聞き取り、事業所としてどう向き合えるのか把握して、利用者や家族の希望に応えられるよう努める。	まずは、利用者と家族から看取りについて説明させてもらい、看取りへの思いを聞かせてもらう。 職員間でも話し合いの場を設けて、不安点や課題点を挙げて、実践に向けて進んでいく。	12ヶ月
2	1	事業所の基本理念、方針が外部にうまく発信できてなく、周知されていない。	グループホームの基本理念、運営方針、処遇方針を家族はもちろんのこと、外部の方々にも知っていただける環境を作る。	基本理念の見直しがあった場合や年度ごとの運営方針・処遇方針について、家族に報告する。 また、ホームページに掲載する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。